



# A 試合会場レポート

試合番号 123

開催日 2025/12/20

令和7年度 天皇杯・皇后杯 JVA全日本バレー ボール選手権大会 男子 会場：京王アリーナTOKYO

観客数： 5,333	開始時間： 18:05	終了時間： 19:42	試合時間： 01:37	主審： 浅井 唯由	副審： 服部 篤史
------------	-------------	-------------	-------------	-----------	-----------

## ウルフドッグス名古屋

監督：パルドヴィン ヴァレリオ  
コーチ：深津 貴之通算： - 勝 - 敗  
ポイント： -

3	25	第1セット 【 00:32 】	22	0
	25	第2セット 【 00:25 】	17	
	27	第3セット 【 00:34 】	25	
		第4セット 【 】		
		第5セット 【 】		
		ポイント	【 内はセット時間 () 内は交代選手	ポイント

## <監督コメント>

世界中のバレー ボール ファン の皆さま、本日は令和7年度天皇杯・皇后杯JVA全日本バレー ボール選手権大会をご覧頂き、誠にありがとうございました。

本日の相手チームとは何度も激しい試合を繰り広げてきましたが、今日の一戦も非常に緊張感のある展開となりましたし、対戦チームに心から敬意を表します。我々ウルフドッグス名古屋は、この準決勝に向けてトレーニングを積み重ねてきた準備を、選手たちはフィールド上でしっかりと表現してくれました。苦しい場面でも互いに声を掛け合い、最後まで一つになって戦い抜いた姿はチームとしての成熟を感じさせてくれました。

年末が近づき、冷たい空気が身に染みる季節ですが、ここ京王アリーナに駆けつけてくださったウルフドッグス名古屋の皆さま、そして世界中から応援してくださった皆さまが選手たちの力を大きくし、後押ししてくれています。心より感謝申し上げます。

明日は今大会の頂点を懸けた大切な試合です。今日の試合で得た学びを整理し、短い時間ではありますが、最善の準備をして決勝に一丸となつて挑みます。共に歩みましょう。  
FUSION & UNITED

25	佐藤 ( 山崎 )	ブゲラ ( 山田 )	第一セ	川口 ( )	藤中 ( )	22
	深津 ( 傳田 )	宮浦 ( )		河東 ( 出水 )	ボワイエ ( )	
	水町 ( )	フベル ( )		デファルコ ( ルカレッリ )	健太郎 ( )	

25	リベロ：	市川	渡辺	リベロ：	和幸	17
	ブゲラ ( 山田 )	宮浦 ( )	第二セ	河東 ( )	川口 ( )	
	佐藤 ( 山崎 )	フベル ( )	セ	デファルコ ( ルカレッリ )	藤中 ( )	

27	リベロ：	市川	渡辺	リベロ：	和幸	25
	佐藤 ( 山崎 )	ブゲラ ( 山田 )	第三セ	川口 ( )	藤中 ( ルカレッリ )	
	深津 ( 傳田 )	宮浦 ( )	セ	河東 ( )	ボワイエ ( )	

	リベロ：	( )	( )	第4セ	( )	( )	
	( )	( )	( )		( )	( )	
	( )	( )	( )		( )	( )	

	リベロ：	( )	( )	第5セ	( )	( )	
	( )	( )	( )		( )	( )	
	( )	( )	( )		( )	( )	

## ジェイテクト STINGS 愛知

監督：真保 綱一郎  
コーチ：豊田 昇平通算： - 勝 - 敗  
ポイント： -

## <監督コメント>

天皇杯準決勝敗退という結果は、非常に悔しい気持ちです。

今日の試合では、ウルフドッグス名古屋の積極的なサーブに苦しめられ、サイドアウトにかなりのプレッシャーがかかりました。

1セット目、我々の強みとするブロック、ディフェンスにおいて数多くのブレイクポイントのチャンスがありました。それらを取り切る事ができず流れが相手に動いたと感じました。

3セット目、途中出場のルカレリ選手と秦選手が流れを変えてくれましたが、あと一步届きませんでした。

この敗戦は我々に非常に大きいダメージを与えますが、来週もまた試合は続きます。

課題を一つずつ克服し、更に強いチームを全員で作って行きたいと思います。

たくさんのご声援ありがとうございました。

## <要約レポート>

天皇杯準決勝第2試合。ウルフドッグス名古屋とジェイテクト STINGS 愛知の対戦。
第1セット、WD名古屋は、フベルや宮浦の強力なサーブで相手の守備を乱し、点を重ねる。STINGS愛知は川口のスパイクや藤中のサービスエースで追撃する。中盤まで一進一退の攻防が続く中、STINGS愛知は川口やデファルコが要所で活躍し、チャレンジも連続で成功させ、試合をリードする。対するWD名古屋も深津が攻撃陣を操り、ブゲラや水町がスパイクを決めて終盤に追いつくと、再び接戦となる。最後はブゲラのスパイクが決まり、WD名古屋がセットを先取する。
第2セット、序盤から水町のサーブが功を奏し、WD名古屋が試合をリードする。対するSTINGS愛知もデファルコのサーブからボワイエがスパイクを決めるなどして追撃する。両チームとも全員でボールを懸命に繋いで熱いラリーを展開し、観客を沸かせる。中盤、WD名古屋は佐藤やフベルの鋭いスパイクが要所で決まり、リードを保つ。STINGS愛知は、終盤にルカレッリを投入するが、なかなか得点に結びつけることができず、8点差をつけてWD名古屋がセットを連取する。
第3セット、後がないSTINGS愛知は、デファルコやボワイエに「ボールを集め、試合をリードしようとする。対するWD名古屋は自分たちのペースを崩すことなく、渡辺、市川を中心とした堅実な繋ぎから、宮浦や水町らがスパイクを決め、点を重ねていく。中盤、STINGS愛知はルカレッリと秦を投入したことでチームは奮起し、高橋(健)の連続サービスエースで点差を縮める。その後も、STINGS愛知は高橋(和)や河東が懸命にボールを繋ぎ、ルカレッリらがスパイクを決めて波に乗り、接戦に持ち込む。しかし一歩及ばず、WD名古屋がこのセットも制してストレート勝利し、決勝に駒を進めた。

作成者： 高澤 利恵